7.2.2.　WHSC

WHSCは、多数の正規化回転数及び負荷モードから構成され、これらをエンジンマッピング曲線に基づいて試験対象である個別のエンジンの基準値に変換すること。

エンジンは各モードで規定された時間にわたり作動させ、その際にエンジン回転数及び負荷を20±1秒以内に直線的に変化させること。

試験走行の妥当性確認は、試験が完了した時点で回転数、トルク及び出力値の基準値と実際値との回帰分析により行うものとする。

試験サイクルにわたる各ガス状物質の濃度、排気流及び出力を決定すること。

ガス状物質の測定は、連続サンプリング又はバッチサンプリングのいずれかの手順を用いることができる。

PMの測定は、コンディショニングされた周囲空気等の希釈剤で希釈すること。完全な試験手順ごとに1つのサンプルを採取し、1つの適したフィルタで捕集すること。

平均排出量を計算するには、サイクル中の実際のエンジン出力を積分することによって実際のサイクル仕事量を計算する。

WHSCを表1に示す。モード1を除き、各モードの開始は、前のモードからの傾斜の開始と定義される。

表1　WHSC

モード	モード正規化した回転数（%）	正規化したトルク（%）	20sの傾斜を含むモードの長さ（s）
1	0	0	210
2	55	100	50
3	55	25	250
4	55	70	75
5	35	100	50
6	25	25	200
7	45	70	75
8	45	25	150
9	55	50	125
10	75	100	50
11	35	50	200
12	35	25	250
13	0	0	210
合計			1895

7.3.　一般的な試験手順

一般的な試験手順を表2に示す。妥当であれば例外を認めるが、該当する項の個別要件は義務付ける。

表2　一般的な試験手順

